交野市埋蔵文化財調査報告 2011 － I

平成 23 年度

交野市埋蔵文化財発掘調査概要

2012.3

交野市教育委員会

例　　言

1　本書は交野市教育委員会が平成23年度国庫補助事業（事業総額1,000,000円　国庫補助率50%　市負担率50%）として計画・実施した交野市内における埋蔵文化財発掘調査の概要報告である。

2　調査次数番号は、遺跡ごとに確認調査・立会・本発掘調査を一括し、その実施順に調査次数番号をつけ、遺跡名・年度・次数の順番に示す（森遺跡2011－3次など）。

3　発掘調査及び本書の編集・執筆は、交野市教育委員会社会教育課文化財係　吉田知史が行った。

凡　　例

1　遺構実測図の方位は、全て磁北を示す。

2　使用した標高は、東京湾平均海水位（T.P.）からのプラス値であり、「T.P. ＋」を省略して示した。

3　本書の断面図の土色注記は、『新版標準土色帖』2010年版にもとづいて示した。

目　　次

平成23年度交野市埋蔵文化財発掘調査概要

1．　交野市と市内の埋蔵文化財包蔵地の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
2．　文化財保護法にもとづく届出・通知・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
3．　平成23年度実施の試掘・確認調査　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
4．　試掘2011－1次調査の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
5．　私部城跡2011－1次調査の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
6．　私部城跡2011－2次・7次調査の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
7．　交野郡衙跡2011－8次調査の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16

挿図

第1図　交野市の位置・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
第2図　交野市内の遺跡分布図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
第3図　東倉治2011－1次 位置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
第4図　東倉治2011－1次 平面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
第5図　東倉治2011－1次 断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
第6図　私部城跡　調査地 位置図　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
第7図　私部城跡2011－5次 位置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
第8図　私部城跡2011－5次 断面図　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
第9図　私部城跡2011－6次・私部城遺跡2011－1次 平面図　・・・・・・・・・・・・・・7
第10図 私部城跡2011－6次・私部城遺跡2011－1次 断面図　・・・・・・・・・・・・・・7
第11図 有池遺跡2011－1次 位置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
第12図 有池遺跡2011－1次 平面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
第13図 有池遺跡2011－1次 断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
第14図 交野郡衙跡2011－5次 位置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
第15図 交野郡衙跡2011－5次 平面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
第16図 交野郡衙跡2011－5次 断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
第17図 試掘2011－1次 位置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
第18図 試掘2011－1次 断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
第19図 試掘2011－1次 平面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
第20図 私部城跡2011－1次 平面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
第21図 私部城跡2011－1次 断面図（1）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
第22図 私部城跡2011－1次 断面図（2）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
第23図 私部城跡2011－2次 断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
第24図 私部城跡2011－2次・7次　平面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
第25図 交野郡衙跡2011－8次 位置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
第26図 交野郡衙跡2011－8次 平面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
第27図 交野郡衙跡2011－8次 断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17

挿表

第１表　平成 23 年度の届出・通知の件数および内訳 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
第２表　平成 23 年度の試掘・確認調査一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

写真図版

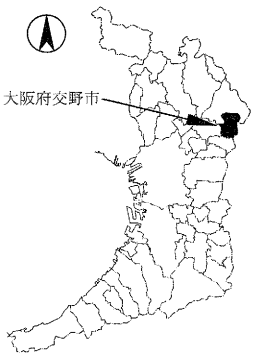
図版１　私部城跡 2011 －１次 第３調査区付近　層の切り替わり部
図版２　私部城跡 2011 －７次 竪穴式住居１
図版３　私部城跡 2011 －７次 竪穴式住居１　磨製石斧　検出状況
図版４　私部城跡 2011 －７次 竪穴式住居１　弥生土器甕　検出状況

平成23年度交野市埋蔵文化財発掘調査概要

1．　交野市と市内の埋蔵文化財包蔵地の概要

（1）交野市の位置と環境

交野市は、大阪府の北東部に位置する市で、昭和30（1955）年に星田村と合併した交野町を前身として、昭和46（1971）年に市制を施行した。市の面積は25．55平方キロメートル、人口は平成23年1月末現在で78,832人に及ぶ。北は枚方市、西は寝屋川市、南は四條畷市、東は奈良県生駒市に接する。また、大阪市、京都市、奈良市から約20㎞の中間地に位置することでも知られる。市の東部から南部には、花崗岩類により構成された交野山地が位置し、その麓に沖積層と洪積層により形成された平野部が広がる。市域の西部から寝屋川市域に流れる傍示川を除くと、交野山地から平野部へと注ぐ川は淀川水系の天野川へと集約される。近年の開発の進展の中でも、市域には豊かな緑と田畑が残された田園住宅都市である。



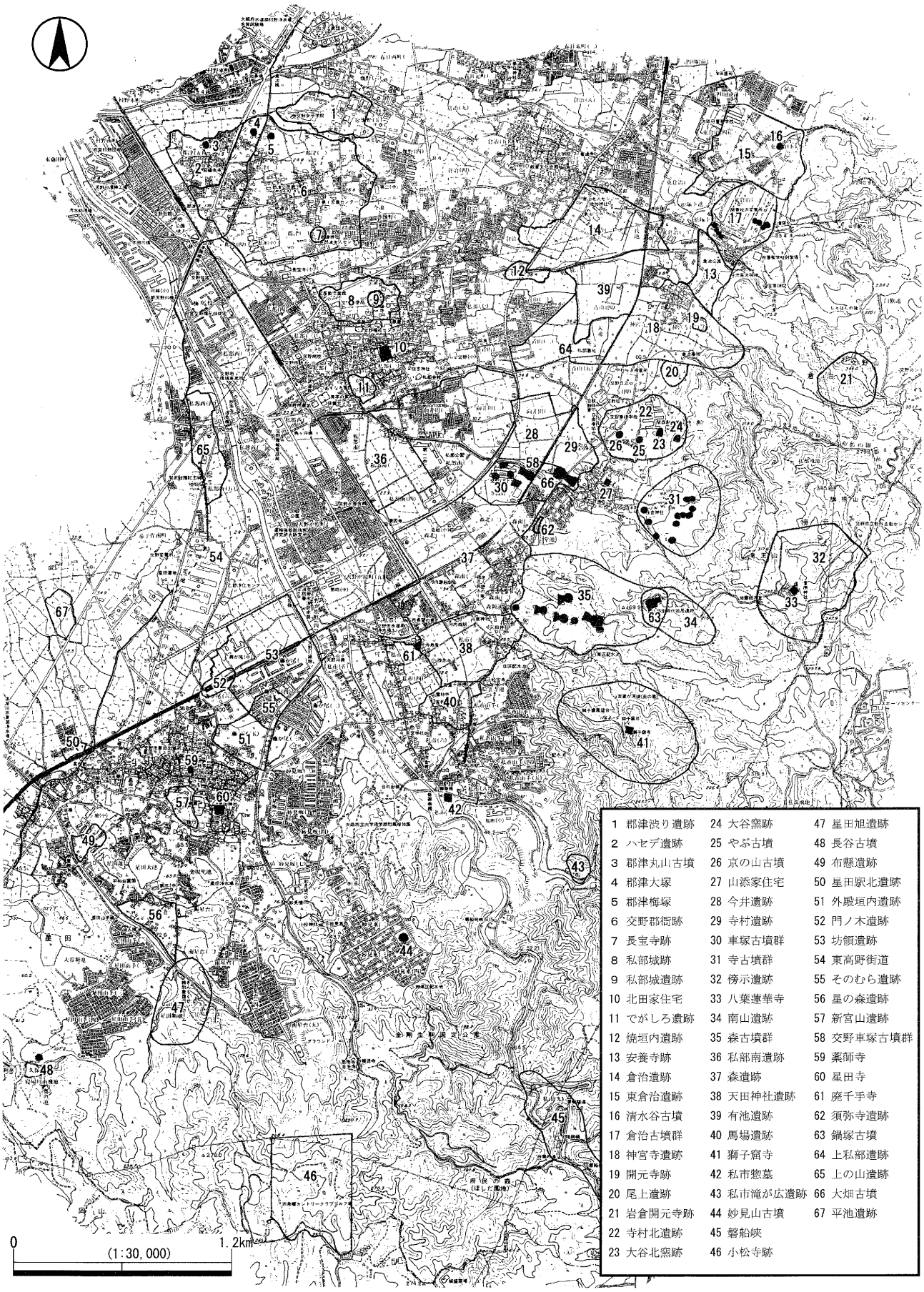
第1図　交野市の位置

（2）交野市内の周知の埋蔵文化財包蔵地

前身の交野町時代から、郷土史家の活動により、旧石器時代から縄文時代の遺跡として知られる交野山麓の神宮寺遺跡をはじめとして、中世の平城の痕跡を明瞭に残す私部城跡、古墳時代後期の寺・倉治古墳群など、市域に残る多くの遺跡の存在が知られてきた。

その後、市域の開発が進展したことに伴い、記録保存のための発掘調査数が増加し、古墳時代の鍛冶生産遺跡である森遺跡など、これまで認識されてこなかった地中の遺跡の内容が明らかにされた。この他にも、府立交野高校建設に伴い発見・調査された交野車塚古墳群、小学生により土器が採集されたことをきっかけとして著名になった森古墳群など、古墳時代の遺跡が広く知られることとなった。

近年では、市の中心部を北東から南西方向に横断する第二京阪道路の建設に伴い、東倉治遺跡、倉治遺跡、有池遺跡、上私部遺跡、私部南遺跡、上の山遺跡、平池遺跡で広大な面積の発掘調査が行われた。これまで不明な点が多かったこれらの遺跡の調査により、旧石器時代から中世まで、交野市の歴史を考える上で重要な成果が数多く挙げられ、市域の周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲が大きく拡大されることになった。このような発掘調査等の成果により、第2図に示したように数多くの周知の埋蔵文化財包蔵地の存在が明らかにされてきた。それでも大規模な開発を免れてきた地域も多く、今後の開発に伴い、その数と範囲が拡大される可能性がある。



1 郡津渋り遺跡
2 ハセデ遺跡
3 郡津丸山古墳
4 郡津大塚
5 郡津梅塚
6 交野郡衙跡
7 長宝寺跡
8 私部城跡
9 私部城遺跡
10 北田家住宅
11 でがしろ遺跡
12 焼垣内遺跡
13 安養寺跡
14 倉治遺跡
15 東倉治遺跡
16 清水谷古墳
17 倉治古墳群
18 神宮寺遺跡
19 開元寺跡
20 尾上遺跡
21 岩倉開元寺跡
22 寺村北遺跡
23 大谷北窯跡
24 大谷窯跡
25 やぶ古墳
26 京の山古墳
27 山添家住宅
28 今井遺跡
29 寺村遺跡
30 車塚古墳群
31 寺古墳群
32 傍示遺跡
33 八葉蓮華寺
34 南山遺跡
35 森古墳群
36 私部南遺跡
37 森遺跡
38 天田神社遺跡
39 有池遺跡
40 馬場遺跡
41 獅子窟寺
42 私市惣墓
43 私市滝が広遺跡
44 妙見山古墳
45 磐船峡
46 小松寺跡
47 星田旭遺跡
48 長谷古墳
49 布懸遺跡
50 星田駅北遺跡
51 外殿垣内遺跡
52 門ノ木遺跡
53 坊領遺跡
54 東高野街道
55 そのむら遺跡
56 星の森遺跡
57 新宮山遺跡
58 交野車塚古墳群
59 薬師寺
60 星田寺
61 廃千手寺
62 須弥寺遺跡
63 鍋塚古墳
64 上私部遺跡
65 上の山遺跡
66 大畑古墳
67 平池遺跡

第２図　交野市内の遺跡分布図

2.　文化財保護法にもとづく届出・通知

（1）文化財保護法にもとづく届出の受理状況

第１表に、平成 23 年４月１日から平成 24 年２月 29 日までの間に受理した文化財保護法第 93 条の届出と 94 条の通知の件数を、遺跡ごとの工事目的と処置の内訳とともに示した。件数は 124 件と、平成 22 年度の 99 件に比べて増加している。工事目的の内訳をみると、分譲住宅・個人住宅および宅地造成が大半を占める。この傾向は数年継続しており、引き続き増加していく模様である。

（2）対処状況

文化財保護法にもとづく届出・通知について、大阪府における開発事業等にともなう埋蔵文化財の取扱い基準に従い、慎重工事・立会調査・発掘調査を実施した。個人・分譲住宅建設とそれに伴う宅地造成においては、地中の遺跡への影響が少ないものも多く、届出件数の増加がそのまま発掘調査数の増加にはつながっていない状況にある。確認のための発掘調査を実施したものについては、次に概要を述べる。

第１表　平成 23 年度の届出・通知の件数および内訳

文化財一覧番号	遺跡名	件数	工事目的の内訳													処置の内訳		
			宅地造成	個人住宅	分譲住宅	その他住宅	店舗	その他建物	ガス	電気	水道	下水道	電話通信	農業関係	その他開発	慎重工事	立会調査	発掘調査
2	ハセデ遺跡	4		1	2										1	2	2	
6	交野郡衙跡	19	2	5	10	1			1							4	13	2
8	私部城跡	12		3	8				1							6	3	3
9	私部城遺跡	1	1															1
13	安養寺跡	3							2						1	2	1	
14	倉治遺跡	5		1					1			1	1		1	2	3	
15	東倉治遺跡	11	1	1	7				2							7	2	2
18	神宮寺遺跡	2		1					1							2		
36	私部南遺跡	11	1	7	1							1	1			8	2	1
37	森遺跡	17	1	1	12	1		1	1							12	4	1
38	天田神社遺跡	1			1											1		
39	有池遺跡	1						1										1
40	馬場遺跡	5	2	2	1											2	3	
50	星田駅北遺跡	1	1													1		
51	外殿垣内遺跡	2		2												1		1
53	坊領遺跡	11			11											11		
54	東高野街道	1						1									1	
56	星の森遺跡	13		5	2	3			3							7	2	4
65	上の山遺跡	4		2					1			1				2	2	
	合計数	124	9	31	55	5	0	3	13	0	0	3	2	0	3	70	38	16

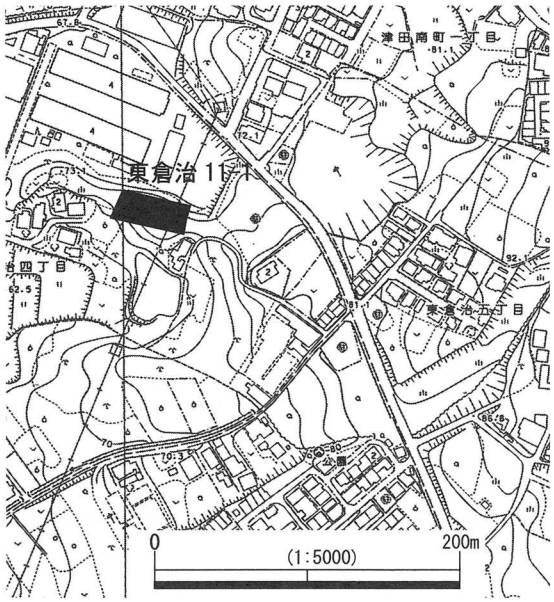
3.　平成23年度実施の試掘・確認調査

（1）確認調査と試掘調査

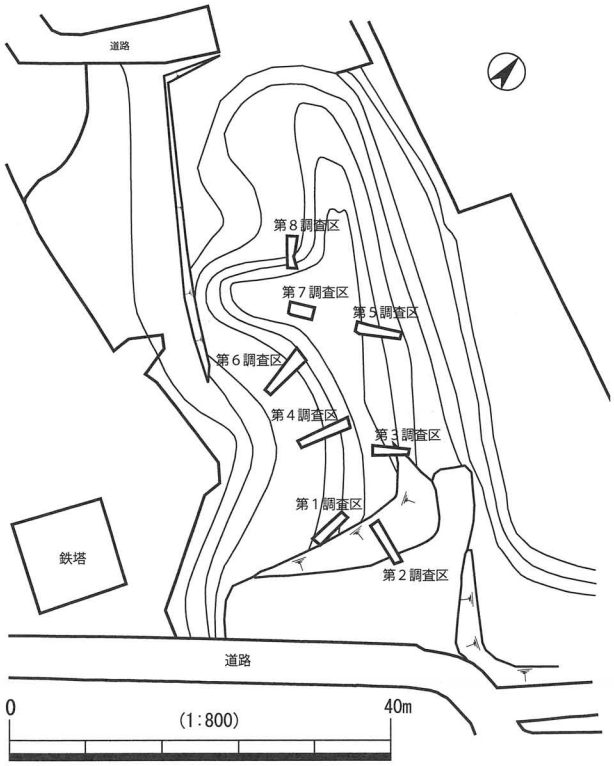
第２表に周知の埋蔵文化財包蔵地内で実施した発掘調査とその内容を記すとともに、各遺跡の調査地位置図、及び調査区平面・断面図を示した。なお、第１表に示した発掘調査の数と、実施された確認調査数が一致しないのは、届出・通知がなされた後に、開発が中止・延期されたため、確認調査が未実施となっているものがあることによる。

第２表　平成23年度の試掘・確認調査一覧

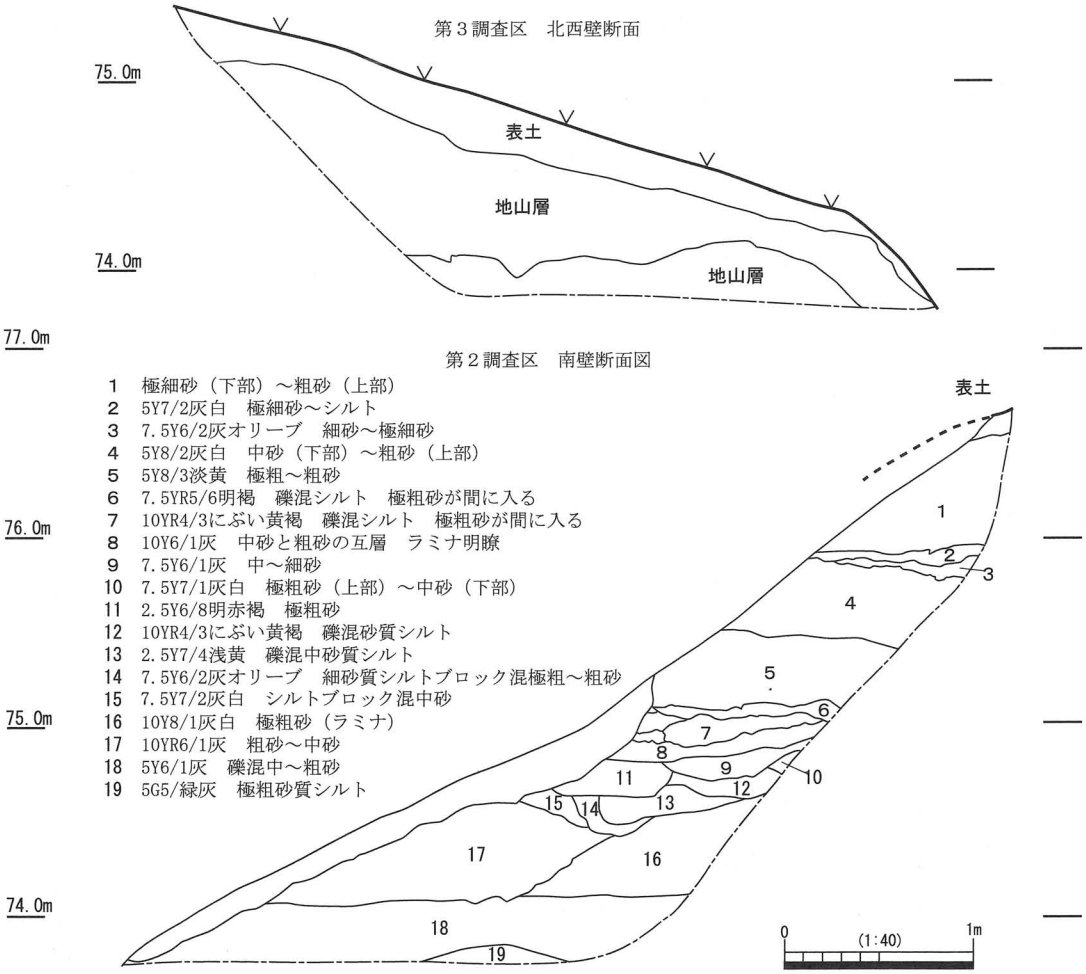
No.	調査期間	遺跡名・調査次数	調査地住所	調査面積 掘削深度	内容・図版掲載頁
1	平成23年 4月11日～ 4月24日	東倉治遺跡 2011－1次	東倉治4丁目 2213－1、2、4	29.1㎡ G.L.-3.0m	第6調査区掘削土中から弥生土器片が発見されたほか、南側斜面で確認された土壌化層が確認された。発掘調査・立会を実施する必要がある（5頁）。
2	平成23年 4月13日～ 6月25日	試掘 2011－1次	私部7丁目 2474、2482	—	L型擁壁施工部等で、主に古代から中世の遺構・遺物を検出した。概要は4章に記す（10・11頁）
3	平成23年 4月20日～ 7月28日	私部城跡 2011－1次	私部6丁目 1716他	—	城の郭が破壊される範囲について記録保存調査を実施した。概要は5章に記す（12・13頁）。
4	平成23年 6月14日	私部城跡 2011－2次	私部6丁目 1729－4、 1738の一部	6.6㎡ G.L.-0.7m	重機掘削を行い、現地表下0.3m以下で、瓦器椀片等の混じる層と、弥生土器を含むピットを確認した。私部城跡2011－7次調査として本発掘調査を実施した。概要は6章に記す。（14頁）
5	平成23年 9月15日	私部城跡 2011－5次	私部6丁目 1673－1、 1674－4	6.3㎡ G.L.-1.2m	重機掘削し現地表下0.4m以下で、地山層を確認した。遺構・遺物は確認されなかった。（6頁）
6	平成23年 10月4日～ 10月6日	私部城跡 2011－6次 私部城遺跡 2011－1次	私部6丁目 1745、1746他	7.7㎡ G.L.-1.0m	重機掘削を行い、旧耕作土上に盛土を行っていることを確認した。明瞭な遺構・遺物は確認できなかったが、L型擁壁設置などにより、中世の城跡を破壊する可能性が高い部分については、別途発掘調査を実施した。（7頁）
7	平成23年 10月11日	有池遺跡 2011－1次	青山3丁目 431―1	14.0㎡ G.L.-0.9m	現地表下約0.4m（T.P.＋28.5m付近）以下で中世の遺物および畦畔とみられる遺構を確認した。原因者負担により、本発掘調査を実施した。（8頁）
8	平成23年 10月17日	交野郡衙跡 2011－5次	郡津2丁目 1332－8他	7.3㎡ G.L.-1.2m	重機掘削し、旧表土層及び、自然堆積層を確認した。遺構・遺物は検出されなかった。（9頁）
9	平成24年 1月16日～ 2月24日	交野郡衙跡 2011－8次	郡津1丁目 269-2他	1.1㎡ G.L.-0.6m	明確な遺構は確認されなかったが、奈良時代前後の遺物を含む土壌化層を確認した。概要は7章で記述する。（16・17頁）



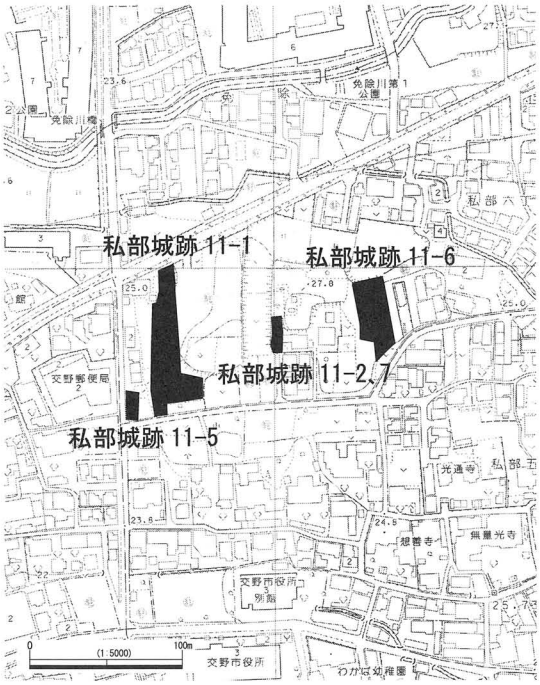
第３図　東倉治 2011 － １次 位置図



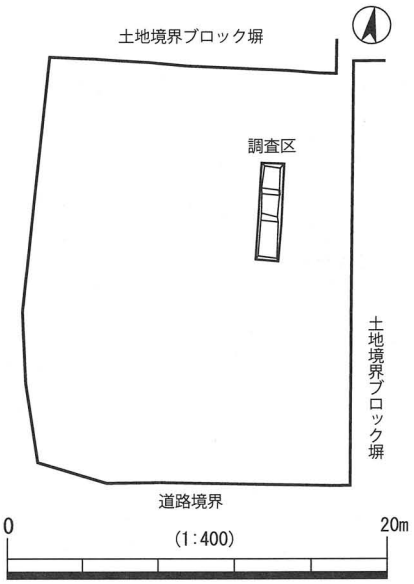
第４図　東倉治 2011 － １次 平面図



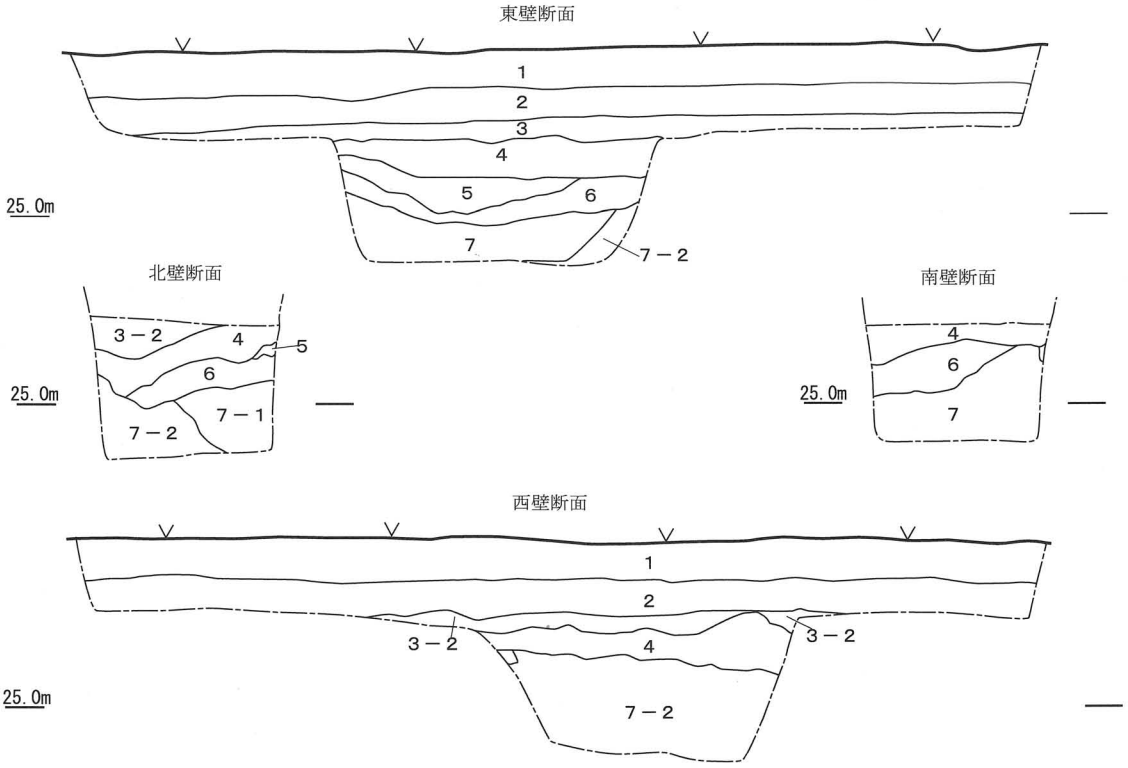
第５図　東倉治 2011 － １次 断面図



第６図　私部城跡　調査地 位置図



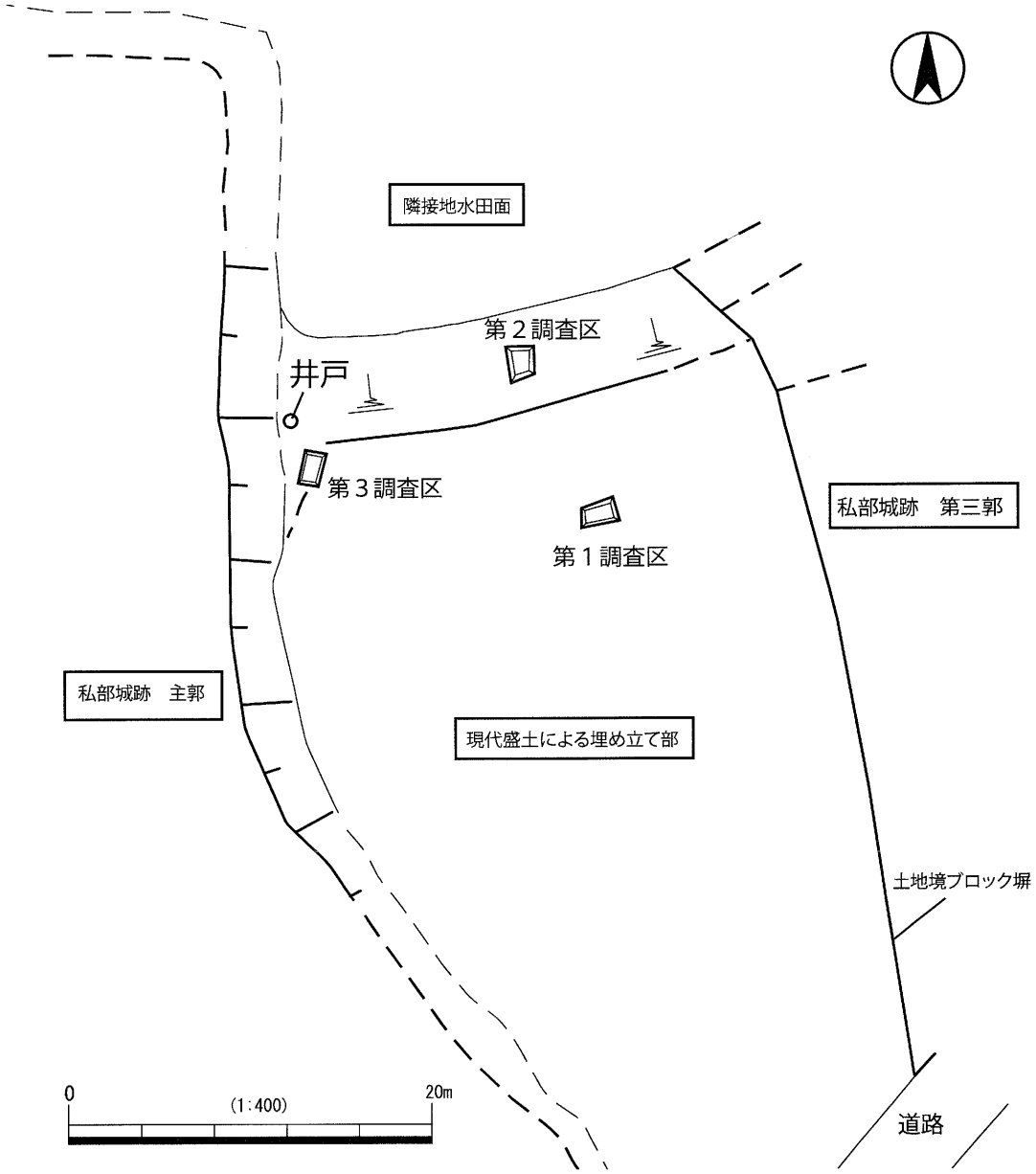
第７図　私部城跡 2011 － 5 次 位置図



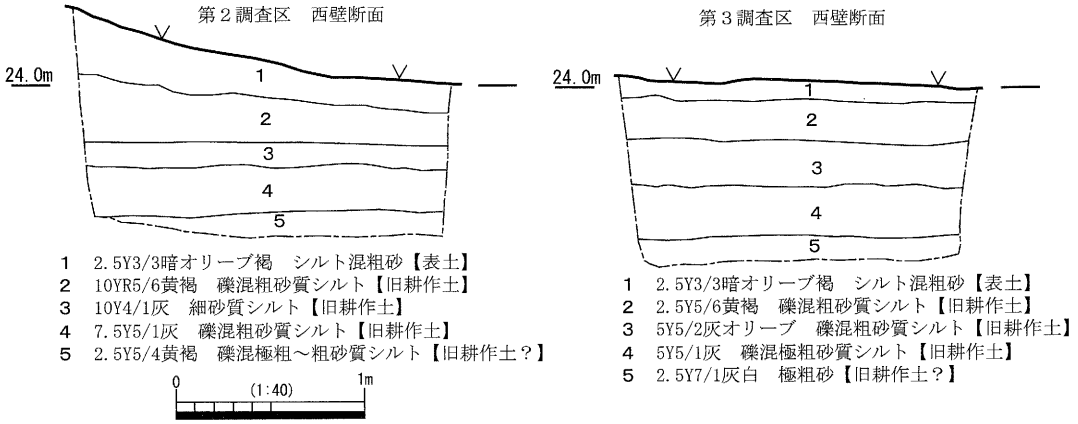
1　5Y7/2灰白　粗・中砂【表土】
2　5Y3/2オリーブ黒　φ～3cmの石多く混
3　10YR6/8明黄褐　白色礫混砂質シルト【整地土】
3-2　10YR6/8明黄褐　礫混粗砂質シルト
4　10YR5/6黄褐　シルト混粗～極粗砂（ラミナ層状）【自然堆積】
5　10YR5/6黄褐　シルト混粗～極粗砂（ラミナ？）
6　10YR6/6明黄褐　極粗砂質シルト　φ～3cmの石多く混
7　10YR5/8黄褐　極粗～粗砂シルト混
7-2　2.5Y6/6明黄褐　中～細砂　2.5Y7/3浅黄　細砂～シルトブロック混

0　(1:40)　1m

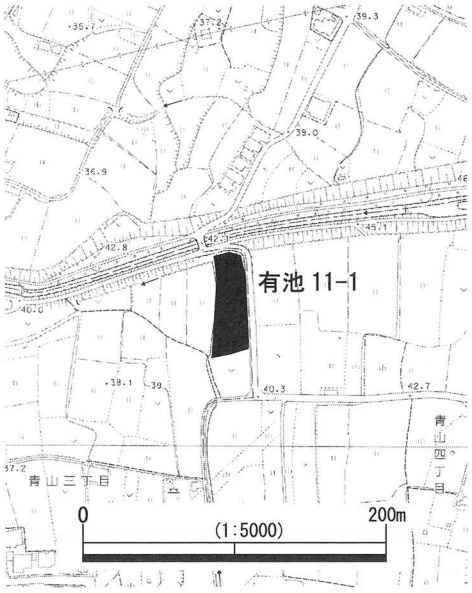
第８図　私部城跡 2011 － 5 次 断面図



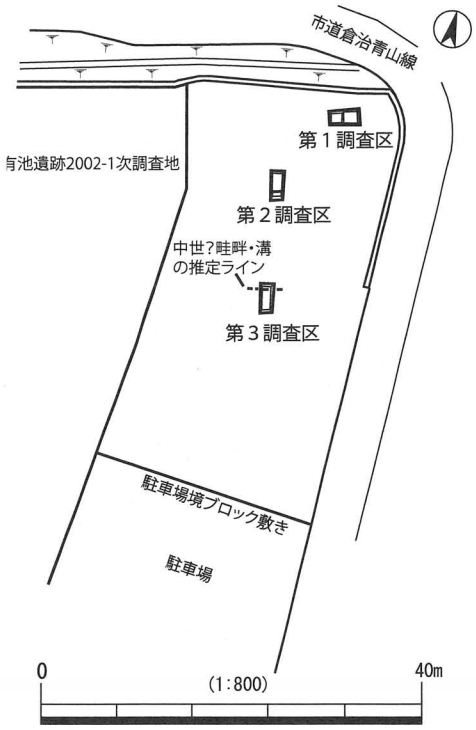
第９図　私部城跡 2011 － 6 次・私部城遺跡 2011 － 1 次 平面図



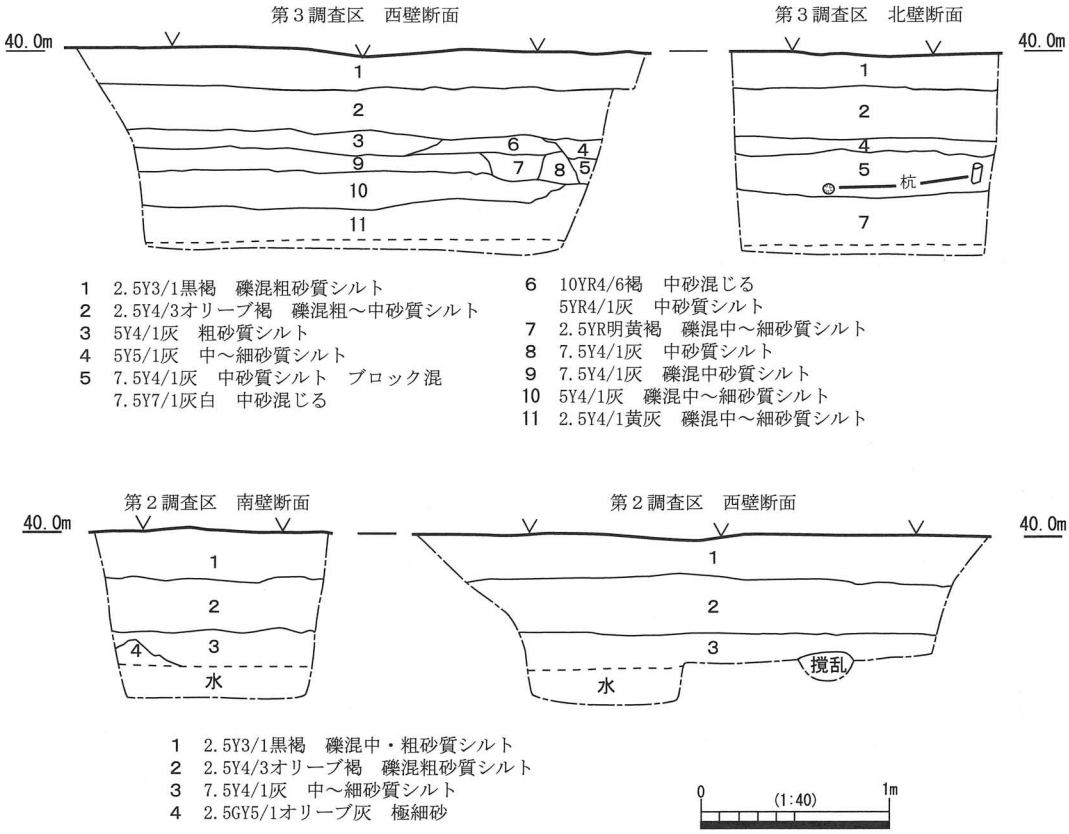
第 10 図　私部城跡 2011 － 6 次・私部城遺跡 2011 － 1 次 断面図



第 11 図　有池遺跡 2011 － 1 次 位置図



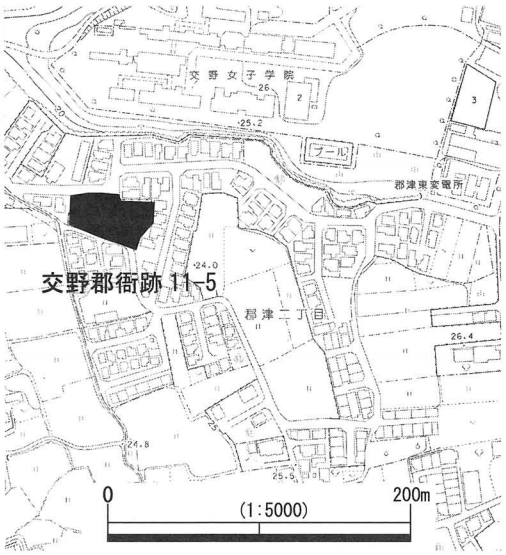
第 12 図　有池遺跡 2011 － 1 次 平面図



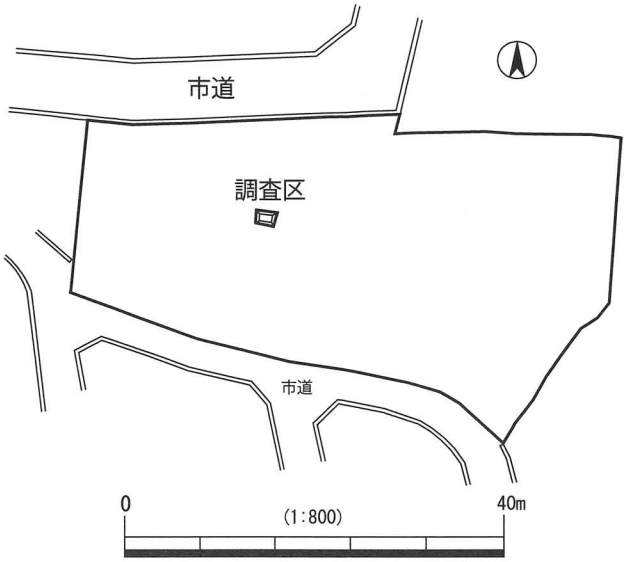
1　2.5Y3/1黒褐　礫混粗砂質シルト
2　2.5Y4/3オリーブ褐　礫混粗～中砂質シルト
3　5Y4/1灰　粗砂質シルト
4　5Y5/1灰　中～細砂質シルト
5　7.5Y4/1灰　中砂質シルト　ブロック混
　7.5Y7/1灰白　中砂混じる
6　10YR4/6褐　中砂混じる
　5YR4/1灰　中砂質シルト
7　2.5YR明黄褐　礫混中～細砂質シルト
8　7.5Y4/1灰　中砂質シルト
9　7.5Y4/1灰　礫混中砂質シルト
10　5Y4/1灰　礫混中～細砂質シルト
11　2.5Y4/1黄灰　礫混中～細砂質シルト

1　2.5Y3/1黒褐　礫混中・粗砂質シルト
2　2.5Y4/3オリーブ褐　礫混粗砂質シルト
3　7.5Y4/1灰　中～細砂質シルト
4　2.5GY5/1オリーブ灰　極細砂

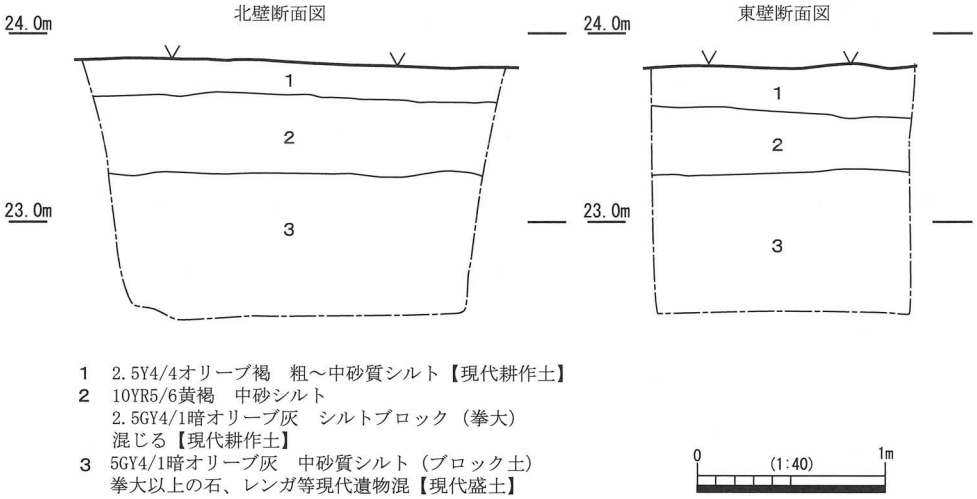
第 13 図　有池遺跡 2011 － 1 次 断面図



第 14 図　交野郡衙跡 2011 － 5 次 位置図



第 15 図　交野郡衙跡 2011 － 5 次 平面図



1　2.5Y4/4オリーブ褐　粗～中砂質シルト【現代耕作土】
2　10YR5/6黄褐　中砂シルト
　2.5GY4/1暗オリーブ灰　シルトブロック（拳大）
　混じる【現代耕作土】
3　5GY4/1暗オリーブ灰　中砂質シルト（ブロック土）
　拳大以上の石、レンガ等現代遺物混【現代盛土】

第 16 図　交野郡衙跡 2011 － 5 次 断面図

4.　試掘 2011 － 1　概要

（1）歴史的環境と調査に至る経緯

交野市私部に位置し、府道久御山・交野線沿いに宅地化が進んでいるなかで、かろうじて農地が残されている一帯であった。同地の南に所在する交野小学校内には、交野市域の古道の一つである私部街道が東西に走っていた。同地周辺では、交野小学校の建設や宅地化が進むなどしていたが、遺構・遺物は確認されず、長らく周知の埋蔵文化財包蔵地とされることはなかった。その一方で、東に近接する上私部遺跡で、第二京阪道路建設に伴う発掘調査により、古墳時代の拠点的な集落遺跡もしくは豪族居館と評価される遺構・遺物が確認されるなど、周辺で新規の遺構・遺物の発見が相次いでいた。

今回は、同地で比較的規模の大きい宅地造成を実施することとなった。このため、遺構・遺物の破壊が生じる可能性の有無を確認するため、L 型擁壁の設置部分などを中心に試掘調査を実施した。

（2）調査成果の概要

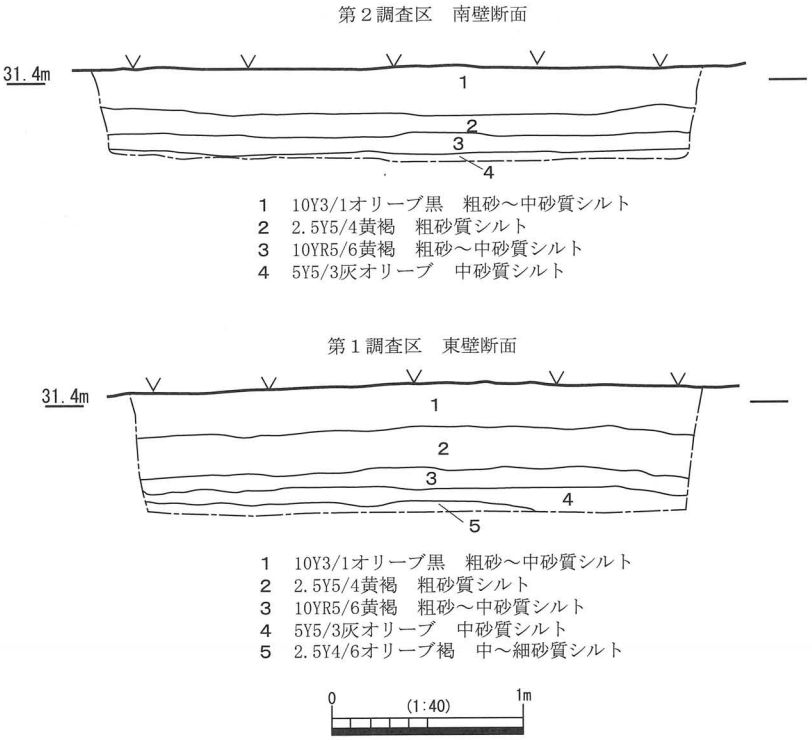
旧耕作土層下で次のような遺構と遺物を検出した。

中世以降の遺構と遺物　旧耕作土層の下面で、畦畔や溝などの遺構を検出した。これらの溝や畦畔は、現在の畦畔水路などと同様におおむね正方位にそっている。これらの遺構には、瓦器椀などの中世遺物から一部陶磁器片がともなっており、これらの遺構が中世以降に形成されていったものとみられる。

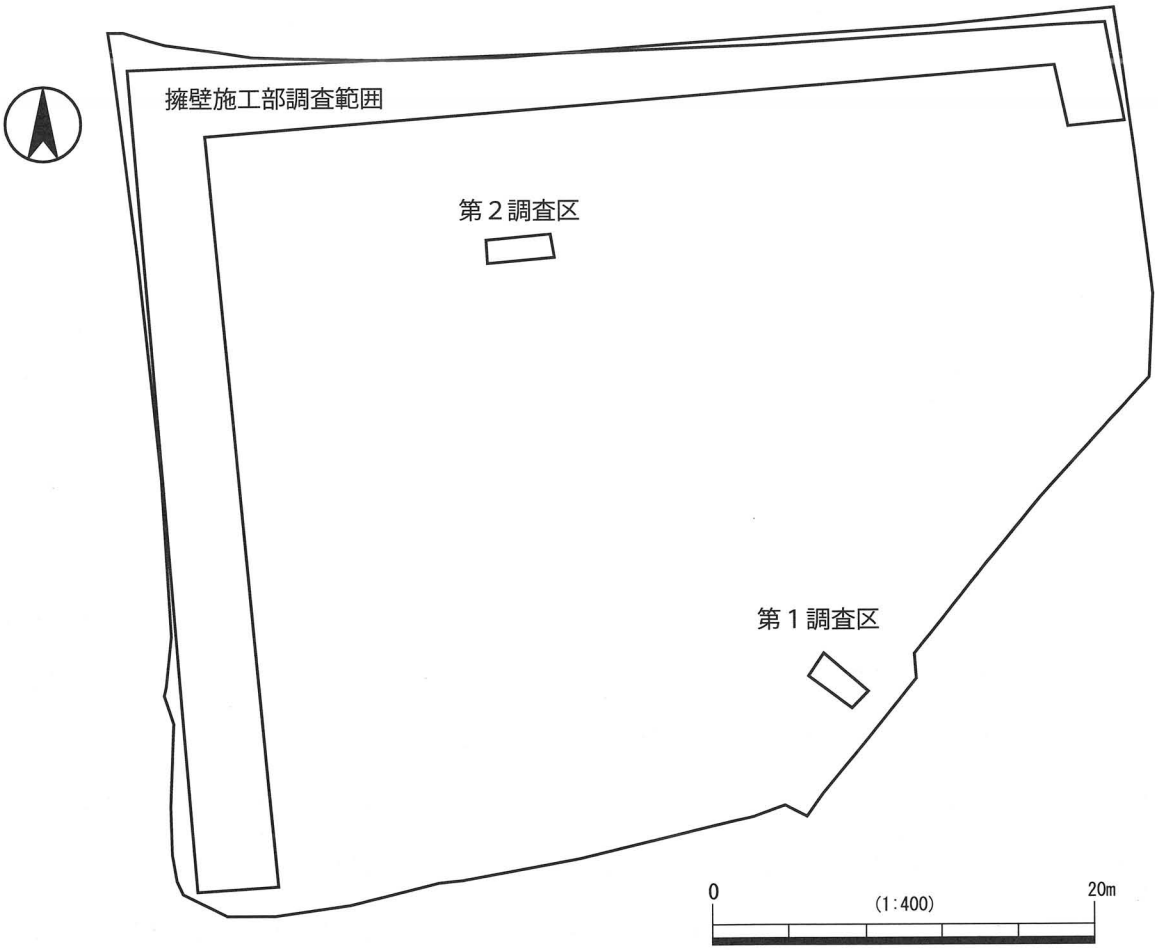
古代の遺構と遺物　中世遺構の耕作関連の遺構に切られる遺構として、柱穴である可能性があるピット群や、溝、焼土を含む土坑などが確認された。これらの遺構には黒色土器や土師器のほか、古代の須恵器などが伴っており、おおむね古代を中心とした時期のものであるとみられる。この古代の遺構には、中世以降のような耕作関連の遺構ははっきりとは認められない。むしろ、ピット群の存在から掘立柱建物の存在もうかがえることや、中世以降に比べて土器の出土量が多いことなどからは、集落域である可能性が高いものとみられる。なお、古代の遺構には、茄子作遺跡例と類似する格子叩き目のある須恵器甕片など古墳時代の遺物もわずかながら認められた。近隣に古墳時代の遺構が存在することを示すものかもしれない。

以上のように、古墳時代には不明瞭ながら、古代に集落域を形成している可能性が高く、中世以降になると耕作地化していることを確認した。これ以降は現代にいたるまで、耕作地として利用され続けてきたものとみられる。こうした遺跡の変遷は、近隣に位置する上私部遺跡などの状況と照らし合わせながらその意義を考えていかなければならない。また、今回の試掘調査の成果により一定量の遺構・遺物群が確認されたことを受けて、今後、調査地周辺を、埋蔵文化財の包蔵地として周知していく必要が生じている。

第 17 図　試掘 2011 － 1 次 位置図



第 18 図　試掘 2011 － 1 次 断面図



第 19 図　試掘 2011 － 1 次 平面図

5.　私部城跡 2011 －１次調査の概要

（1）歴史的環境と調査に至る経緯

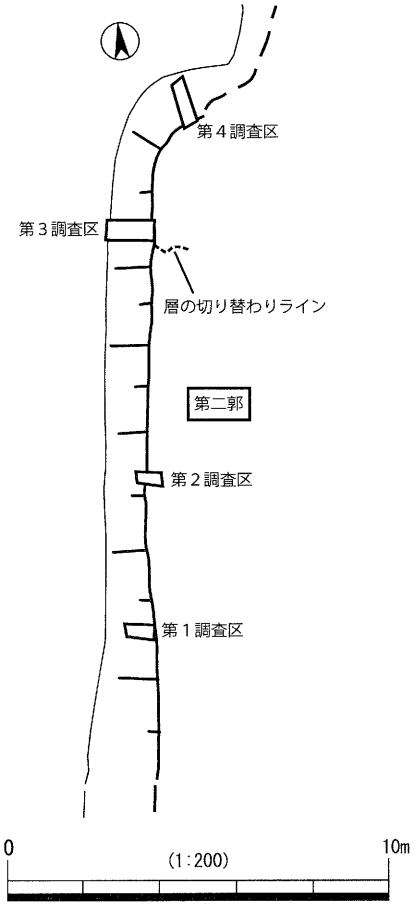
私部城跡は、交野市域の中ほどに東西にのびる中位段丘上に位置する。ここには、東西に並ぶ三つの郭とその間にめぐる堀が残されており、その周囲にも土塁とみられる高まりが点在している。交野を本拠とした安見氏の居城として文献史上に登場する「交野城」とされ、大阪府内でもっとも良好に残された中世の平城の一つである。「天守」、「城」など城に関わる地名も残され、現在の町名にもとづき「私部城」と呼ばれ、市民に親しまれている。また、私部城跡周辺の調査では弥生時代の遺物や、溝の可能性がある包含層などが確認され、私部城遺跡と呼ばれている。

本調査地は私部城の東西に並ぶ三つの郭のうち、西の第二郭の西端から堀に位置する。ここを農地転用し、宅地として造成されることになった。当初の届出によれば、遺構破壊が及ぶのは下水管設置部、第二郭の西側堀部に設置する擁壁の基礎部分に限られるとのことであり、部分的な発掘調査または立会をする予定であった。だが、届出の後に、市文化財係への連絡なしに、第二郭西端を切り崩してＬ型擁壁を設置する計画変更がなされ、一部未発掘のまま着工された。これを市文化財係員が発見し、施工業者と協議の上、急きょ、重機提供を受けて記録保存目的の発掘調査を実施することになった。

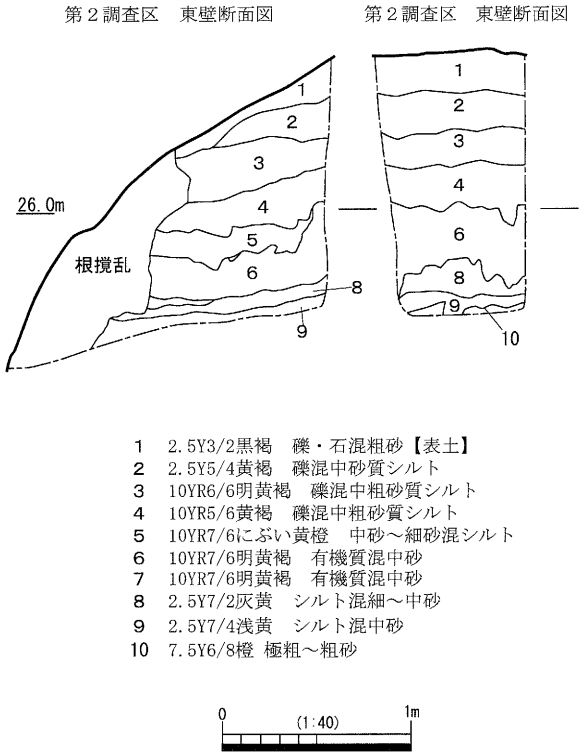
（2）調査成果の概要

第二郭西端部に調査区を設定し、郭の構築状況を確認するとともに、郭の西端上面を精査した。この結果、郭上面と第３調査区断面（図 22）にて、郭を構成する土の堆積状況が大きく切り替わる部分を確認した（図版１）。第 20 図に示した切り替わりラインより南では、旧地表土とみられる土壌化層の下に、黄褐色でしまりのよい砂質シルト層が堆積していた。この層の特徴は、私部城跡 2011 －２次・７次調査で確認された弥生時代遺構の基盤である地山層と類似する。これらの点から、第二郭のうち、切り替わりラインより南側は、自然の高台を利用して構築されたとみられる。

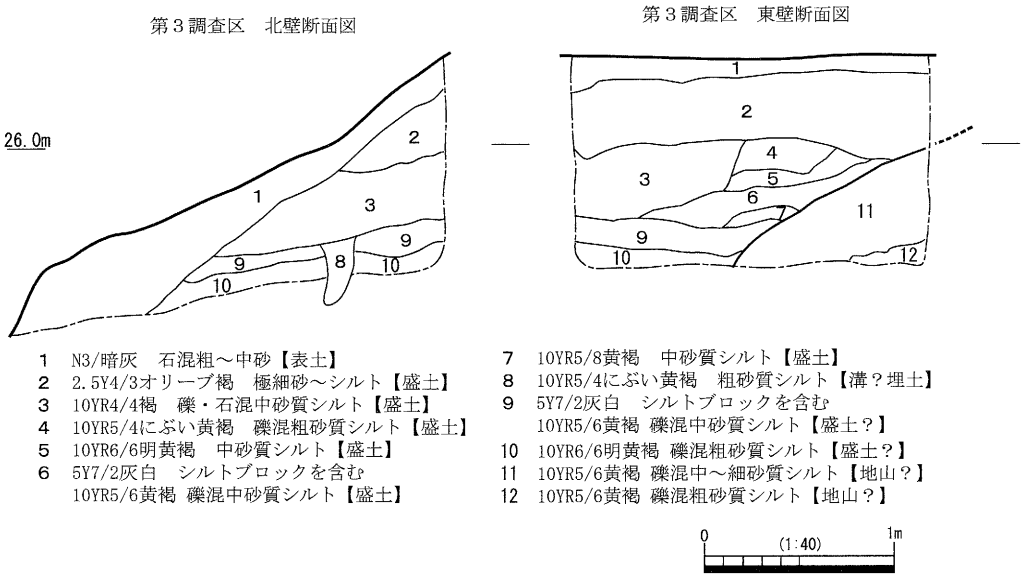
それに対して、切り替わりラインより北側では、南側の安定した堆積状況とは大きく異なり、ブロック土などからなる土層が細かい単位で切り替わりながら堆積していた。これは盛土を行った痕跡と考えられる。これと類似する層は、今回の調査地点より北側の地点でも確認されており、第二郭の北半は盛土により構築されたとみられる。なお、この盛土とみられる層中からは、中世のものとみられる瓦片が１点出土し、第二郭が現在の形に構築された時期を考える手がかりもわずかながら増加した。また、今回は図化しえなかったが、郭上面の調査では、ピット・土坑などの遺構も確認された。以上のように私部城の第二郭の構築方法やその過程を検討する材料が今回の調査によって得られた。



第 20 図　私部城跡 2011 － 1 次 平面図



第 21 図　私部城跡 2011 － 1 次 断面図（1）



第 22 図　私部城跡 2011 － 1 次 断面図（2）

6.　私部城跡 2011 －２次・７次調査の概要

（1）歴史的環境と調査に至る経緯

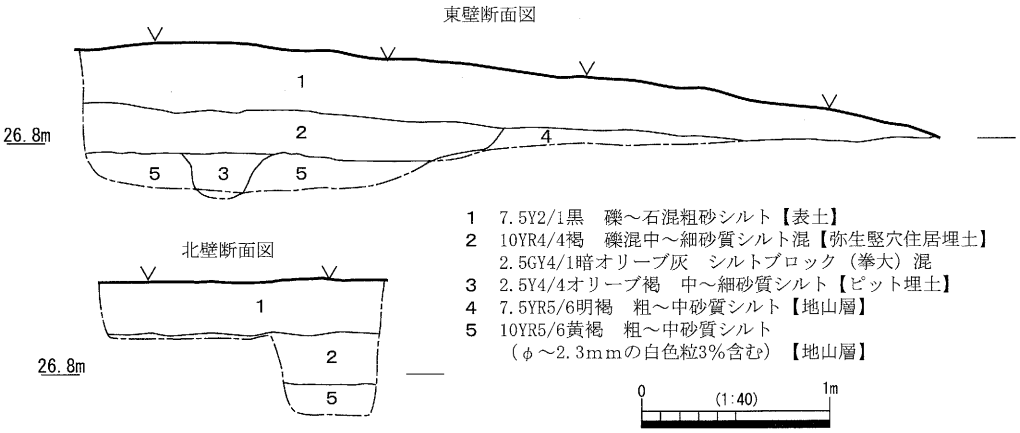
私部城跡の東西に並ぶ三つの郭のうち、中央に位置する本郭の南西部にあたる。宅地造成を伴う個人住宅建設の計画が立てられたため、私部城跡 2011 －２次調査として確認調査を実施した。この結果、遺構破壊が生じることが確認されたため、私部城跡 2011 －７次調査として本発掘調査を実施した。

（2）調査成果の概要

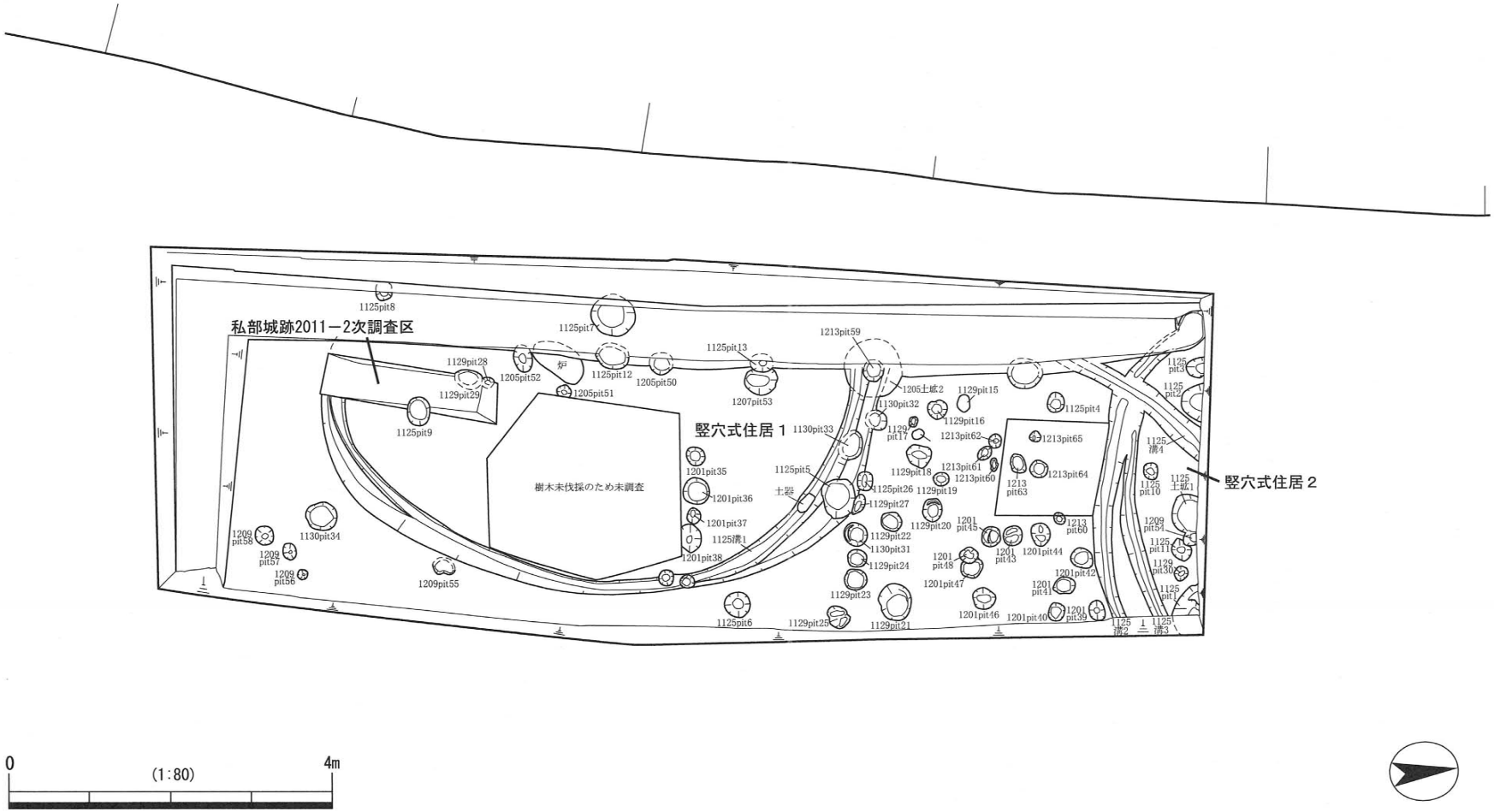
平成 23 年 10 月 18 日から同 12 月 16 日まで調査を行い、主に弥生時代と中世に関する成果を得た。

弥生時代　私部城跡の下層では、弥生時代の遺跡が存在することが知られてきたが、今回の調査で初めて竪穴式住居２棟を検出した。特に竪穴式住居１は、楕円形の炉跡の周辺にピットが位置することから、伝来当初の弥生文化に認められる松菊里型住居とのつながりがうかがえた。このような住居の例は、交野市内では私部南遺跡に続き２例目で、交野市域への弥生文化の到来と定着の過程を知る上で重要な成果が得られた。住居内では、弥生時代中期頃とみられる土器のほか、磨製石斧・砥石・敲石・打製石鏃・サヌカイト剥片などの生産・生活の道具も検出され、私部城よりもはるか昔に営まれた弥生時代の暮らしの一端が明らかになった。

中世　弥生時代遺構の検出面とその直上では、瓦器椀などの中世遺物を含む浅いピット・溝なども検出された。これはいまだに謎の多い私部城本郭の利用状況と、築城の年代を知る手がかりとなる。また、２棟の弥生時代竪穴式住居の上部が削平され、その直上に中世遺物を含む層が堆積することや、竪穴式住居１の西側３分の１程度が郭の斜面によって切られていることなどからは、私部城築城にあたって、弥生時代以来の高台が整地された可能性も考えられる。



第 23 図　私部城跡 2011 －２次 断面図



第 24 図　私部城跡 2011 －２次・７次　平面図

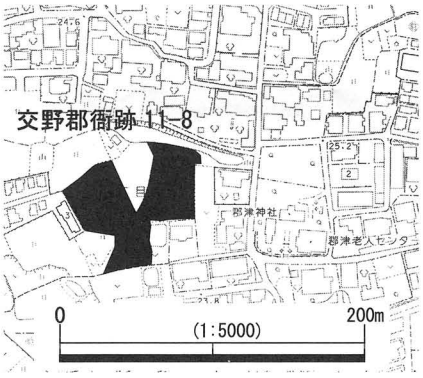
7.　交野郡衙跡 2011 －８次調査の概要

（1）歴史的環境と調査に至る経緯

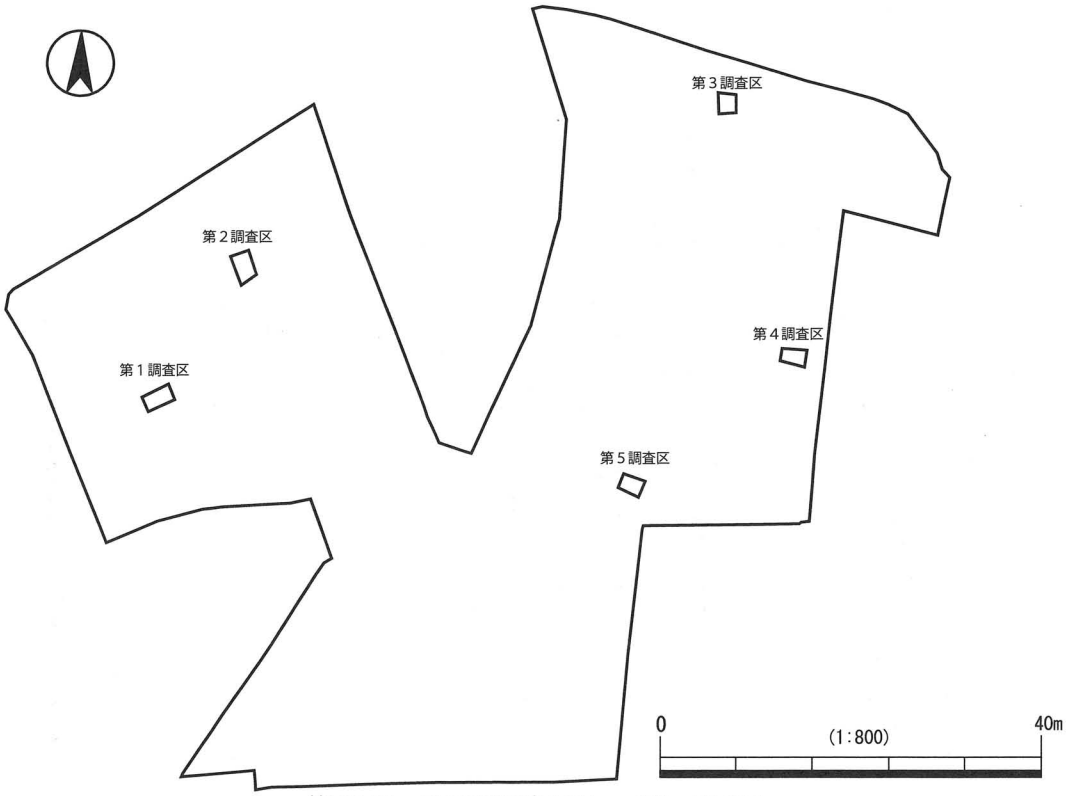
交野市の周知の埋蔵文化財包蔵地である交野郡衙跡の中でも、飛鳥時代後半から中世までの瓦が出土し、交野市域で最古の古代寺院とみられる長宝寺跡の西に位置する。近年まで、農地として利用され、その合間には農業用の水路や池などが多く認められる。今回、この農地を転用し、宅地として造成することとなった。このため発掘調査を実施し、造成による遺構･遺物への影響の有無を確認した。

（2）調査成果の概要

第１～第３調査区にて、旧耕作土層下の土壌化層中から、須恵器・土師器片・瓦片を検出した。これらの遺物は小片であり年代の詳細は不明だが、おおむね奈良時代から古墳時代の間におさまるとみられる。調査地北半を中心に、広範囲に調査を行えば、遺構も確認される可能性が高い。遺物を多く含む層は、造成による影響を受けない深さに位置することが判明したため、本発掘調査は実施しなかった。

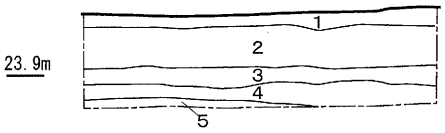


第 25 図　交野郡衙跡 2011 －８次 位置図

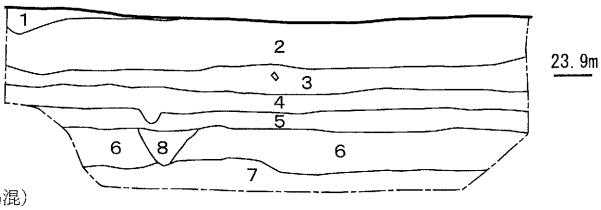


第 26 図　交野郡衙跡 2011 －８次 平面図

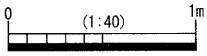
第２調査区　北壁断面図



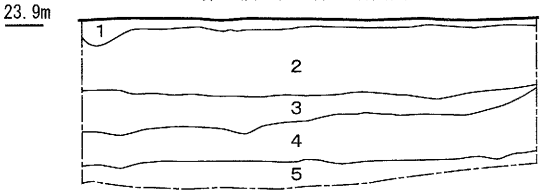
第２調査区　東壁断面図



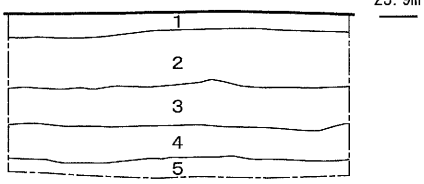
1　2.5Y3/1黒褐　粘質土【耕作土】
2　10YR4/6褐　礫混粘質土（10YR5/3にぶい黄褐混）
3　10YR5/8黄褐　粘質土（10YR6/3にぶい黄橙混）
4　2.5Y5/2暗灰黄　粘質土（7.5YR3/3暗褐混）
5　7.5YR3/3暗褐　粘質土
6　10YR3/3暗褐　粘質土
7　10YR3/4暗褐　粘質土
8　7.5YR3/4暗褐　粘質土（7.5YR2/3極暗褐混）



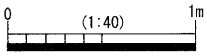
第１調査区　東壁断面図



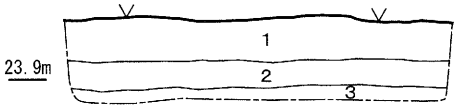
第１調査区　北壁断面図



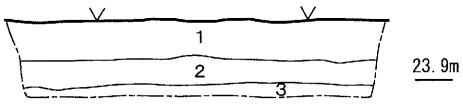
1　2.5Y3/1黒褐　粘質土【耕作土】
2　2.5Y4/4褐オリーブ褐　粘質土（2.5GY4/1暗オリーブ灰混）
3　2.5Y5/2暗灰黄　φ２cm礫混粘質土
4　2.5Y4/2暗灰黄　礫混粘質土（土器片混入）
5　10YR4/2灰黄褐　粘質土



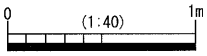
第３調査区　北壁断面図



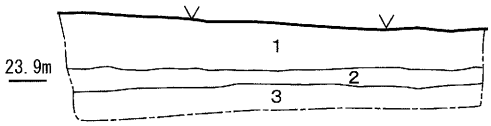
第３調査区　東壁断面図



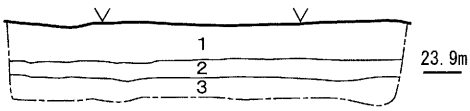
1　2.5Y4/1暗オリーブ灰　細砂質シルト
2　5Y5/4～5Y5/6オリーブ　シルトブロック・礫混シルト
3　2.5Y5/4黄褐　褐鉄鉱？・礫混中砂質シルト



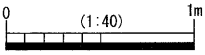
第４調査区　北壁断面図



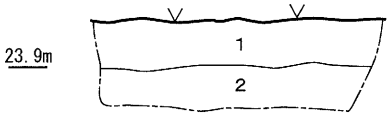
第４調査区　東壁断面図



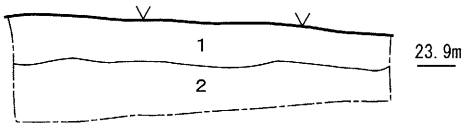
1　2.5GY4/1暗オリーブ灰　中～細砂質シルト
2　5Y5/3灰オリーブ　中砂質シルト
3　5Y8/4淡黄　シルト



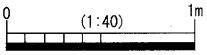
第５調査区　北壁断面図



第５調査区　東壁断面図

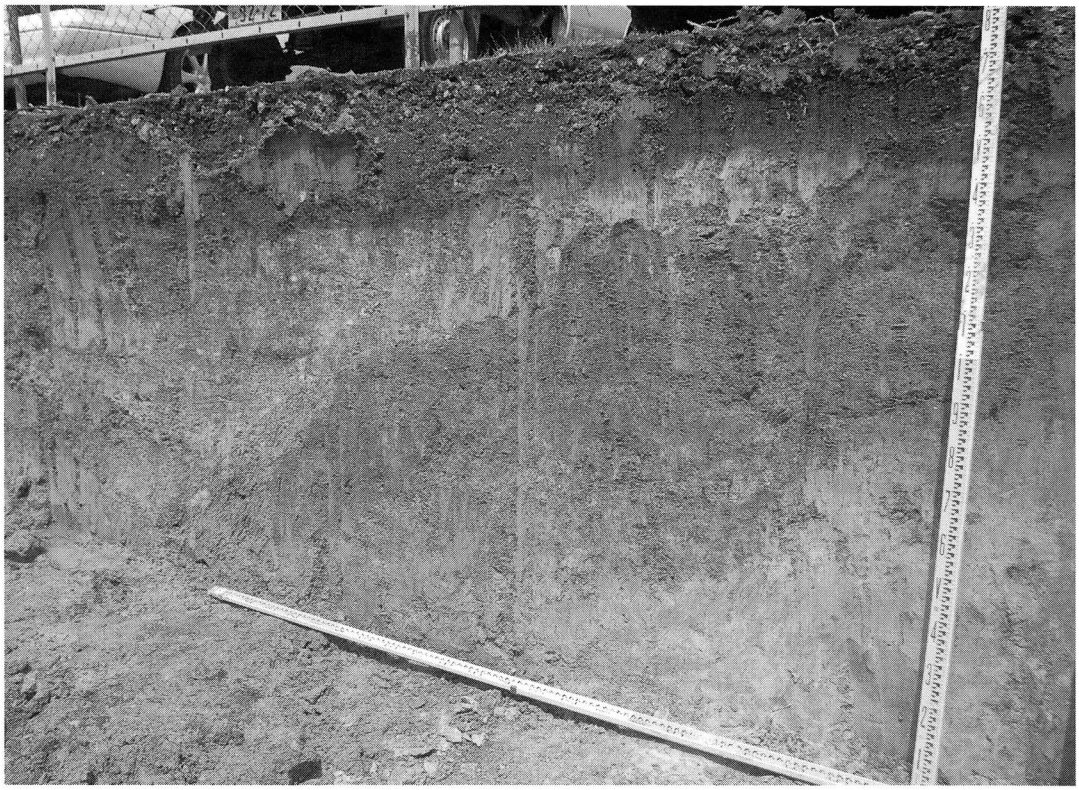


1　2.5Y4/1暗オリーブ灰　中～細砂質シルト
2　5Y4/3暗オリーブ　中～細砂質シルト



第 27 図　交野郡衙跡 2011 －８次 断面図

写　真　図　版



図版１　私部城跡 2011 －１次　第３調査区付近　層の切り替わり部

図版２　私部城跡 2011 －７次　竪穴式住居１

図版３　私部城跡 2011 － 7 次 竪穴式住居１　磨製石斧　検出状況

図版４　私部城跡 2011 － 7 次 竪穴式住居１　弥生土器甕　検出状況

報告書抄録

ふりがな	へいせい23ねんどかたのしまいぞうぶんかざいはっくつちょうさがいよう
書名	平成23年度交野市埋蔵文化財発掘調査概要
副書名	
巻次	
シリーズ名	交野市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	2011－I
編著者名	吉田知史
編集機関	交野市教育委員会
所在地	〒576-0052　大阪府交野市私部1丁目1番1号　TEL (072)892－0121
発行年月日	2012年3月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	市町村 コード	市町村 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
きさべじょうあと 私部城跡	かたのしきさべ 交野市私部	27230	8	34° 47′ 23″	135° 40′ 46″	平成23年 10月18日～ 12月16日	54.4㎡	個人住宅 建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
私部城跡	城館跡 集落遺跡	中世 弥生時代	ピット 溝 竪穴式住居	瓦器 土師器 弥生土器 石器	

平成23年度　交野市埋蔵文化財発掘調査概要

発　行　日　2012年3月30日

編集・発行　交野市教育委員会

大阪府交野市私部1丁目1番1号

印　刷　所　京阪工技社

（本報告書は、再生紙を使用しています。）